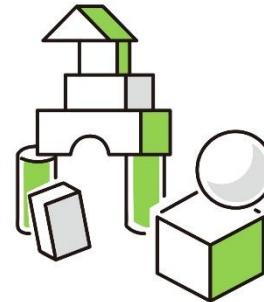


みんなで考えよう

安全な保育施設のつくり方

事故防止のためのチェックポイント



令和7年11月26日

宮城県保健福祉部子育て社会推進課



みんなの知恵と工夫で、安全な保育の場をつくろう。

保育施設の皆さんへ

いつも安全な保育の環境づくりをしてください、ありがとうございます。
事故の発生リスクを低下させ、子どもの大切な命を守るために、保育に携わるすべての関係者が共通認識を持ち、日頃から組織的な取り組みをすることが大切です。
その手引きとして、法令やガイドライン、県内や他都道府県の事例をもとに、県が実施する安全確認監査のチェックポイントを中心にまとめたので、ご確認ください。
ただし、目視や口頭で確認可能な事項に絞っているため、詳細については根拠規程・通知を確認してください。また、各施設の状況に応じて、その他にも必要となる安全確保の取り組みをお願いします。
本資料は、全国的な重大事故の発生状況や、各施設の現場の創意工夫を取り入れながら、隨時見直していくます。

根拠規程・通知

子ども家庭庁「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」
教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議 年次報告
子ども家庭庁「特定教育・保育施設等における事故情報データベース」
子ども家庭庁「子どもの事故防止ハンドブック」
消費者庁「子どもの事故等の防止に関する注意喚起等の公表資料」
厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
子ども家庭庁「乳幼児突然死症候群(SIDS)について」
内閣府令和4年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における『乳児等の睡眠中の突然死』に係る検証報告についての調査研究」
厚生労働省「保育所、地域型保育事業及び認可外保育施設においてプール活動・水遊びを行う場合の事故の防止について」
子ども家庭庁・文部科学省「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」
株式会社キャンサースキャン「不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き」
全国保育士会「保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト」
全国保育協議会「東日本大震災被災保育所の対応に学ぶ～子どもたちを災害から守るための対応事例集～」

目次

1	危機管理全般	p.2
2	保育室	p.3
3	食事	p.4
4	午睡	p.5
5	屋外	p.6
6	その他アイデア	p.7

作成

宮城県

保健福祉部 子育て社会推進課 保育支援班

〒980-8570

宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

Mail kosodateh@pref.miyagi.lg.jp

Tel 022-211-2529



日頃から防災、不適切保育の未然防止・早期発見の取り組みを組織的に。

チェックポイント

✓	区分	内容	具体例
防災	人員配置	危機管理の責任者、順位を決め、職員に周知しているか。	1 園長 2 副園長 3主任
	構造	責任者が災害リスクとなる地理的状況を理解し、防災計画に反映しているか。	津波浸水区域、避難所の位置
	想定・訓練	停電の場合も可能な情報収集の方法を複数定めているか。	ラジオ、インターネット
		保護者への引き渡しルールを定め、定期的に保護者に周知しているか。	引き渡し訓練の実施
虐待等	認識共有	不適切保育に関する認識を職員が共有しているか。	園内研修の実施
	早期発見	保護者や保育士が、何らかの違和感を感じた場合、気軽に相談できるか。	担当窓口設置、日頃のコミュニケーション

解説・補足

- 施設長が不在の場合でも、迅速で適切な意思決定ができるよう、責任者の予定となる人は心構えをしておくことが必要です。
- 東日本大震災では、適切な情報収集の有無が生死を分けました。災害時の情報収集担当者を決めておくことが望ましいでしょう。
- 東日本大震災では、犠牲になった保育所入所児童のほとんどが、保護者に引き渡された子どもでした。施設にとどまるこことや、保護者とともに高台へ避難することも選択肢になり得ます。
- 2025年10月から、保育所等における虐待通報の義務化の仕組みが創設されました。
- 不適切保育については、少し気になりつつも見逃してしまうようなことであっても、それが繰り返されていくうちに問題が深刻化していくこともあります。そのため、早い段階で改善を促し、未然に防ぐことが重要です。



整備不良は思わぬ事故につながるため、日頃の確認徹底を。

チェックポイント

✓	区分	内容	具体例
配置・構造	人員配置	法令に基づく最低基準を満たしているか。	各保育室の児童数、保育士数の随時確認
	構造	子どもの所在がわからなくなる場所や死角はないか。	テレビ台収納、ドラム式洗濯機の中の確認
	扉	指のはさみこみの危険性はないか。	指ばさみ防止の設置
	窓	高所から転落につながらないか。	窓際に足場となる机を置かない
	コンセント	子どもが触れられる状態ではないか。	コンセントカバーの設置
備品	転倒・落下	重量物の転倒・移動・落下の危険性はないか。	ピアノの固定、耐震ロック
	衝突	角に衝突した際の危険性はないか。	木製タンスの角の保護
	誤飲	誤飲の可能性があるものが、子どもの手の届く位置にないか。	画鋲、マグネット、消毒液、漂白剤の除去

解説・補足

- 遊んでいるうちに、思わぬところに隠れ、自力で出られなくなり、熱中症で死亡するケースもあります。
- 他の子どもが閉めた扉に挟まれる事故もあります。
- けがは転落によるものが最多です。
- コンセントへの金属片差し込みによる感電が目立ちます。着脱が容易なコンセントキャップは、誤飲の可能性があるため、子どもの手が届く場所では望ましくありません。
- 大規模地震時のけがのうち、3～5割は家具・家電の転倒・落下・移動です。
- 強い地震の際には、ピアノなどの重量物も転倒・移動の危険があるため、固定が必要です。
- 壁面収納に重量物を置く場合、耐震ロックが必要です。
- テーブルクロスは、子どもが引っ張って、その上の重量物が落下する危険があるため、望ましくありません。
- 画鋲は落下の危険があり、使用は望ましくありません。



食事提供の一連行動において、人的エラーを減らす取り組みを。

チェックポイント

✓	区分	内容	具体例
全般	献立検討	誤嚥・窒息の起きた食材を提供していないか。	白玉風だんご、丸いままのミニトマト
	食事環境	落ち着かない環境や提供の仕方ではないか。	子どもの口にあった量、正しい姿勢の確保
	発生時	のどに詰まらせた際の救急対応方法を保育士が把握しているか。	消防署による講習の実施
アレルギー対応	入園時	担当保育士が、アレルギーの子どもを把握しているか。	○○くんは卵と乳、○○ちゃんは小麦
	食事準備	視覚的にアレルギー対応食を区別できるか。	専用トレイ・食器、名札、アレルゲンの明記
	配膳	アレルギー対応食の提供間違いを防止するルールがあるか。	「○○ちゃん、○○抜きです」と声かけ
	食事中	他児の給食を誤って食べない席の配置とし、保育士は目を配れる位置か。	保育士は隣の位置、他児との間に座る
	発生時	すべての職員がエピペン®の保管場所、注射タイミング、方法を知っているか。	※一時的に預かっている場合のみ

解説・補足

- 餅などでなくても、一見嚥下しやすいと思われる食品も窒息の原因となり得るので注意が必要です。
- 処置の善し悪しが、生死を分けるため、いざという時に応急処置が適切に行えるよう訓練が必要です(背部叩打法、胸部突き上げ法、腹部突き上げ法)。
- 保育室を担当しているすべての保育士がアレルギー対応が必要な子どもを把握している必要があります。
- 保育士がやむを得ず離れる時は、他の保育士に声をかけるようにしましょう。



死亡事故は、0～1歳児の睡眠中、入園から30日以内の事故が最多。

チェックポイント

✓	区分	内容	具体例
	事前把握	乳幼児突然死症候群(SIDS)のリスクが高い子どもを把握しているか。	両親の喫煙状況の把握
	寝具選定	呼吸の妨げになる(隙間が生まれる)寝具ではないか。	柔らかすぎる布団、重いかけ布団、枕
	環境準備	隣の子どもと適切な間隔をあけ、窒息のリスクになるものは周囲にないか。	ぬいぐるみ・ヒモの除去
	呼吸確認	顔色・様子がわかる明るさで、呼吸をチェックしているか。	うつぶせ寝、顔に布団がかかっていないか
	記録	呼吸チェックを記録しているか。	0歳:5分、1歳:10分、2歳:15分おき推奨

解説・補足

- 医学的な理由で医師からうつぶせ寝をすすめられている場合以外は、乳児の顔が見える仰向けに寝ることが重要です。
- 何よりも、一人にしないこと、寝かせ方に配慮を行うこと、安全な睡眠環境を整えることは、窒息や誤飲、けがなどの事故を未然に防ぐことにつながります。
- 他にも窒息リスクがあることに気付いた場合には、留意点として記録し、施設・事業所内で共有しましょう。



屋外では活発に動き回り、目の届かなくなるリスクも上昇。

チェックポイント

✓	区分	確認ポイント	具体例
	門・玄関	職員の確認なしに外部から施設に入れないと子どもだけで外出できないか。	門扉の施錠
	外壁・遊具	劣化、破損、危険な箇所はないか。	頭が挟まるような隙間の修繕
プール活動		監視役と指導役を分けているか。監視役は全体を把握できる位置か。	監視役の配置
		緊急時の対応方法を理解しているか。	消防署による講習の実施
	園外活動	バス乗降車、散歩の前後、場面の切り替わりで置き去り防止対策をしているか。	安全装置の設置、ダブルチェック点呼

解説・補足

- 平成13年に起こった、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った不審者が侵入した事件では、犯人は「門が閉まっていたら入らなかったかもしれない」という趣旨のことを語っており、門扉の施錠の徹底が重要です。
- 他にプール活動では、異変に気付くのが遅れると事故につながる。監視役以外の保育士や子どもも、監視役は監視に専念にしていることを理解していることが重要です。水の中は光の反射で見えにくい場所もあるため、監視役は意図的に確認が必要です。



法の基準を守るとともに、足跡マークなどのデザインが、安全や衛生につながる主体的な行動をうながし、保育をよりクリエイティブにしています。
 監査や本資料にも現場の創意工夫を活かすことで、監査の時間を保育施設の皆さまの創意工夫を県全体で共有し、発展させる共創の場とします。

県内施設の事例



手洗場の手前に足跡マークを貼ることで、子どもが列を作り並ぶようになりました。また、トイレ入口に足跡マークを貼ることで、スリッパをそろえるようになりました。



手洗場に気仙沼で大人気のホヤぼーやのイラストを貼ったところ、「会いに行きたい！」「見ている！」と、手洗いをしっかりする子がとても増えました。



安全と衛生に配慮しながら、子どもが着やすい劇の服のイメージ画像と、日用品を使った簡単な作り方をChatGPTに出してもらいました。

アイデア募集

皆さまの施設で取り組まれている工夫について、小さなものでも構いませんので、いつでも投稿フォームからお寄せください。

写真とコメントを書く簡単なものです。

許可なく公開することはありませんので、ぜひ気軽にお願いします。

投稿フォーム：<https://logoform.jp/form/GQGB/1283834>



©宮城県・旭プロダクション